

## 令和7年度第1回江差町総合教育会議 議事録

開催日時：令和8年2月26日 16時20分～16時55分

開催場所：江差町役場庁舎2階第2会議室

出席者：町長、教育長、教育委員3名

欠席者：教育委員1名

説明員：学校教育課長、社会教育課長、指導主事3名、学校教育課総務係長

(学校教育課総務係長)

それでは、引き続き令和7年度第1回江差町総合教育会議を始めさせていただきたいと思っております。規定に基づきまして、議長につきましましては、町長の方で執り行うこととなっておりますので、この後の議事進行をお任せしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(町長)

皆さん、教育委員会の後の総合教育会議ということで開かせていただき、ご出席を賜り、感謝申し上げます。比較的暖かくなってきたかなというふうに思っているま春を迎えればいいなというふうに思っています。そういった中で、今週で2月が終わり3月に入っていくと卒業式、また学校にとっては入学式という時期になっていくかなと思っております。今ほど教育長と話していたのですけれども、もう少し早い時期にこの会議を開くべきではないかというご意見もありますので、まだ次年度以降そういった点について勘案させていただければなと思っております。

年が明けてから学校の小学校中学校の生徒の皆さんと交流する場がいくつかありました。まず1つはですね、江差中学校の皆さん、1年生が江差町のガイドということで、自分達で調べものをして町を歩いてガイドブックを作ってくれました。そのお披露目の説明のときに中学校に行ってきたんですけれども、クイズ形式で4グループ、5グループぐらいに分かれた子どもたちが私とか教育長に質問して、どれだと思いますかということで、手を挙げて全部正解したかったのですが、できなかったということで、まだまだ私も教育長も文化について学ばなければいけないということ、生徒の発表を聞きながら感じました。またこういうものを町のPRに積極的に使っていきたいですし、生徒の皆さんが江差町を歩いて江差の魅力あるいは江差の文化歴史をもう一度考えてもらう、また認識してくれる、そういったきっかけになったのではないかなということで、とてもいい取組だったと思って帰ってきました。

また、先週は江差北小学校の6年生が一人ずつ名刺を作ってきて、私、名刺交換をしました。自分達で作った名刺だということで、もうそういう時代だなと。役場職員の名刺よりとても面白いというか、工夫をして自分の好きな食べ物であったり、好きな場所であったり、児童によっては名字がなくて、名字が分からないんですけども面白いなという。彼らはですね、それぞれいろんな提案をしていただいて、意見交換をさせてもらって、まちづくりについて私自身も子どもたちから学ぶところも多い機会であったと思っております。

こういった地域の中で子どもたちが江差町の中で育っていく。そして、地域を考えてくれる、そういう取組、学校教育中学校小学校あるいは教育委員会の皆さんも含めてですね、

ご協力いただいている賜物だなというふうに感じています。人口減少で子どもの数は減っていますけれども、子どもたち一人ひとりを大切にする、そういう教育であって欲しいなというふうに思っています。そういった面では教育委員会、あるいは教育委員会事務局の職員としっかり力を合わせて、教育行政を前に進めていかなければいけないと思っています。

本日は協議事項として江差町教育大綱について、皆様とご協議をいただき、それを成案して、また新たな教育大綱として走り出しをしていきたいというふうに考えておりますので、今日はその点について皆さんからご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

協議事項江差町教育大綱についてということで日程に入らせていただきます。前回は令和3年5月に改訂、それを少し修正改訂するという形で使わせていただきたいということで、提案させていただきます。基本的には大きく方針を変えるということはずせず、不足している、あるいは新たに考えなければならないところを加筆する形で改訂していきたいと思っています。

以前は教育大綱の方針のところは、「子どもたちを誰ひとり取り残さない教育行政を推進する」というものでした。これに加えて、特に社会教育、生涯学習の部分で少し不足しているというようなご指摘をいただきましたので、学ぶ心を育むというところを加筆して、「子どもたちを誰ひとり取り残さず、学ぶ心を育む教育行政を推進する」という方針に改訂をさせていただきたいなと思います。

先ほど国会中継を見ていたら、代表質問に答える高市総理大臣が子どもたちを誰ひとり取り残さないという発言をされていてですね、いや私は令和3年からやっていると思ったところでしたが、その下の取組の柱ということで、改訂はしませんけれど項目ごとに私の思いを入れさせていただきました。まず1つ目は「子ども一人ひとりに、目が行き届き温かい教育を提供する町」ということですね。少子化の中でも、子どもたちを地域全体、あるいは保護者・学校に限らず地域全体で見守るような、そして温かく育っていける環境を作っていきたいなというふうに思っています。そういった中では、エコーの2階は子どもたちに開放して、学校・家庭以外の場所を作ることが私は大事なかなと。都市部に行けば、例えば少し遊びに行くと子どもたちが集まる場所があるんですけど、なかなかこういう地域だと家と学校以外にそういった居場所ができていないのではないかとこのところ、エコーの2階というところ開放して使用してもらっています。そういったところをですね地域の中で子どもたちを温かく見守って成長につなげていけるようなものにしていきたいと思っています。

2点目、「多様性の社会を尊重する力を育む町」ということです。特にトランプ政権になって、非常に排他的な国際情勢になっていると私自身は感じています。ただその一方で、それに加えて〇〇ファーストという言葉が非常に盛んに使われる。日本人ファーストであったり都民ファーストの会という政党もありますけれども、私はいろんな違いがある中で何が一番大事なのかということではなくて、やはり他者を受け入れていく、違う自分とは違う人たちをどうやって理解をし調整をしていくのかということが、子どもたちにとって必要だと感じています。そういった今の国際情勢あるいは国の方向、何か私自身は間違っている方向に向かっているのではないかとこの危惧を強く持っています。そのためにもで

すね、自分とは違うということを知るためには自分自身をしっかり認識しなければいけない。人との違いということでは、自分自身がどういう存在なのか、どういう位置にいるのかということをしっかり認識した上で、他者との違いを認めて受け入れ一緒に生きていく、そういうような考え方を子どもたちには身につけて欲しいと思っています。例えば障害があったりなかったり、あるいは国籍が違ったり、言語が違ったり、文化宗教が違ったり、そういう違いをきちんと受け止められる子どもたちであってほしいなということでこの項目を掲げさせていただいています。

3点目、「自己肯定感を高め、自己決定のできる力を育む町」ということです。子どもたちが自分自身の生きる道をしっかり考えて、それを自分自身で決めていくというようなやり方とか、いろんなことを学びながら、自分自身がどうあるべきかということをしっかり考えて、自分で決められるような大人になってほしいなというふうに思っています。責任という言葉と、自由という言葉が、私は強く意識しなければいけないのかなと思いますけれども、そういったものを判断できる能力を子どもたちには付けていって欲しいと思っています。

次からは生涯学習の部分で、「生涯を通じて学び続けられる心身を育む町」ということで、赤字の部分付け加えた部分で、年代や体力に応じた様々な運動を通じて健康増進を図ろうというところでございます。

もう1つ赤字で新たな柱として、「ふるさとの魅力を継承する人を育む町」ということで、ふるさとの魅力を理解し後世へと引き継ぐ人を育てますということ、まさに先ほど子どもたちが町のパンフレットを作ったり、自分達の町を歩いて町の魅力が何なのか課題が何なのかということを考えていただいたり、そういうことを子どもたちがしていました。ただ子どもたちに限らずどんな年代の人達にとっても、そういったところが故郷に目がいくそして思いを寄せていただく、そういった郷土醸成を町全体で進めていきたいなということで、今回はこの5つの柱に基づいて教育大綱として新たに次のステップに向かって行きたいと思っています。

なかなかですね教育の分野、一朝一夕に成果が出るものではないというふうに思っています。粘り強く、そしてまた、一步ずつ着実に前へ進むということが私は大事だと思っています。そういった意味ではめまぐるしく国の政策や北海道の政策、社会情勢が変わる中でも、しっかり子どもたち一人ひとりに向き合い、そしてどんな年代になっても学ぶところを真摯に育む町を皆さんとともに作っていく、そういった考えを持っていきたいなというふうに思っています。

私の考えは以上でございまして、そして皆さんから教育大綱の改定に向けて、何かご意見とか、日々感じておられる思いなどがあればお聞かせいただきたいということで、この後は意見交換をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

何か皆さんが感じていることや思っていることがあれば教えていただければと思いますが。

(教育長)

教育委員の皆さんはもちろんですが、指導主事の先生方も、普段町長と直接話すことはないと思いますので、いろいろと発言いただければと思います。

(指導主事)

はい。よろしくお願ひします。先日ですね町長が冒頭挨拶にご挨拶があった北小の校長をやっていたものですから、その繋がりでも僕も参加させてもらったんですが、その後、担任の先生と対話するときは、子どもたちの感想ですね、町長と対話をさせてもらって、僕たちの意見も丁寧に拾い上げて答えていただいたってということで、本当に感動していたんですよ。だから、大切にされたという意識をすごく持っていたという、まさしく最初に挨拶にあったような子ども一人ひとりを大切にするという部分で。僕たちも子どもたちの様子を見て、その後子どもたちがこういうことも言っているんですけどすごく自信を持ったんですよ。自分達でこういうこともできるかもしれないということが、次の学びの原動力になっているというふうに担任の先生が聞いたんですよ。だから、何かお尻を叩いてはい頑張れ頑張れって言うよりも、子どもたちってやっぱり一人ひとりを大切にすることで、それがエネルギーになって次のことになるんだっていうことを改めて今回学ばせてもらいました。最初の取組の柱の、一人ひとりに目が行き届いて温かい教育を提供する町というのはとても大切だなと、その後の下にもずっと続いてくるんだっていうふうに思いました。意見というか、感想というか、子どもたちの様子をちょっとお伝えさせてもらいました。ありがとうございました。

(町長)

ありがとうございます。本当に、この立場をやらせていただいて、例えば小学校の遊具を導入するときに子どもたちの意見を聞いて決めていただきました。そのときに私自身も学んでですね、南小は児童の投票で決めましたけれども、北小は児童会が小さい子どもが使うことも考えて児童会で決めたというところで、これは本当に直接民主主義か間接民主主義かの違いで、民主主義を学ぶ一つだったとも私は感じています。例えば、議会は間接民主主義で住民の代表代弁者として議会で多数決、片や南小はそれを全校児童の一人1票による投票で決める、中には投票しないという子がいたと聞いています。その投票しない理由は今ある遊具を撤去して欲しくないから、どれにも投票しないと言った子がいるということですね、すごくしっかり考えて、どれに投票するしないだけでなく投票しないという選択をしたというのは、その子がいろいろ考えた結果のことだなということで、それが主権者教育という、何か硬い言葉になってしまうんですけど、そういったことを学ぶ機会にもなったのではないかなということで、むしろ子どもたちから私も学ぶことがあったなというふうに感じていてですね、そういった民主主義の中では投票権、選挙権は18歳からですから子どもたちにはありませんけれども、やはり町政にしっかり自分達の意見が届くということを感じてもらえるような町というの、同時に私は実現していきたいと思っていて、指導主事から出た北小の子どもたちとのそういった意見交換というのは非常に私にとっても有意義でしたし、むしろそう実行できるようなら実行していかなくてはという思いになりました。そういう機会を与えてくれた学校の皆さんには感謝をしているところなので、今後そういったことがあれば積極的に子どもたちと意見交換したいと思っています。ご発言ありがとうございました。

他に何か皆さんが感じるものがあれば教えていただければと思います。感想でもいいし、

全然違う話でも普段感じていることを話していただければと思います。教育大綱というのは本当に幅広く教育行政についての町の方針を集めるものですので、これにない直接リンクしないところであってもですね、ぜひ皆さんの意見をお伺いしていきたいと思いますので、自由に発言いただければと思っております。はい、どうぞ。

(教育委員)

うちの子どもたちが先週の3連休でエコーに遊びに行ったんですけど、まず土曜日は下の子がクラスの子それぞれ集まって、それぞれ、何だろわらしべ長者みたいに一人ずつと言われながら、楽しく遊びに行っていて、次の日は来られなかった子がいたのでその子のためにもう1回行ったんですけども、上の子がどうしてもクラスメイトや友達が見つからない。見つからないと行けないので二人で函館に行ったという経緯があって、でも昨日やっと友達が見つかって一緒に行ってきたんですけど、やっぱり行ってみるとね、楽しそうに江差小学校の子ども南が丘の子ども、本当に慣れたように遊んでいるので、いいことだと思っています。ただ北小の子は見たことがないので、これは何かの機会があれば北小の子も2階で遊んでもらえればいいかなと思っております。

あとちょっと考えてみたのですが、1から5ある中で、子ども一人ひとりがということでも多様性と自己肯定感とか生涯を通じて体力に応じたとかあるんですけども、この5つ目のふるさとの魅力を継承するっていうところが、なんとなく押しつけがましい感じがして、本当にそれぞれの好きな江差があるのかなというのもあるし、あと言い方悪いですけどそのお祭りによって、結局のところ、子ども同士のカーストがあってそれが大人になっても結局続いているのがあって、昔から僕たちの時代だと、なんかいけてる子たちはお祭り出られるけどいけてない子たちは姥神さんのお金もらってお神輿さん担ぐとかね。その段階で、いろいろ歴史によって、何か、上手く縛られているというところも否めない。この町特有の良さでもあって悪さでもあるのかなってというのは考えているので、ちょっとこれを見てそれを感じました。

(町長)

ありがとうございます。今2点についてお話いただきました。1点目がエコー、2点目が赤字で一番下の考え方というところで、そうですね。押し付け感が少しあるのは違和感がある。

(教育委員)

住んでいるものとして、それぞれの江差ってあるのかなってというのは感じたんですよ。

(町長)

そうですね。いいところでもあり、そうでもない部分があるかもしれないというご指摘だと思いますので、ちょっと表現も含めて、成案の前にこの表現でいいか、何て言うか主的な表現できるようなものがあるのか、ちょっと考えさせていただければなと思います。エコーの部分については北小の子どもたちのっていうのをご指摘されたかと思いますが、保護者の目線としてもっとこうあるべきだとかいうようなお考えがあれば。

(教育委員)

保護者として見れば。どうだろう。危ないかなと。安全性。どこかで規制があるのかなと。いっぱい遊んでいるので、混雑緩和はあるかな。

(町長)

なるほど。その辺は建設する段階から担当だったのが今の学校教育課長なんですけども、その時の考え方であまり決まりをたくさん作ると子どもたちが来なくなってしまう、本来の役割がないのではないかと、なるべく子どもたちの自主性、自由度を高めた場所にすべきではないかという意見を聞いて、私はもっと決まり事をたくさん作って安全にしないで駄目じゃないかと思ったんですけども、子どもたちのっていうところで何か当時のポイントがあれば。

(学校教育課長)

そうですね、委員がおっしゃる通り、保護者目線で言うとあれするなこれするなと言いたくなくなってしまうんですけど、最初からのコンセプトは自由度を高めるというところもあって、自由にレイアウトしたり自由に遊べるスタイルを維持したりするためには、やっぱり最低限の規制にとどめたい。危険回避する規制だけにとどめたいというところなんです。で、その都度ですね、人がいるので声掛けをさせていただいて何か貼って何かするというのではなく人の目で声掛けをして、子どもたちに浸透するように、自然にそういう動きになるようにということでは来ているんですけど、保護者目線にするとその通りだと思います。ただ、それをできるだけさせないようにとか、保護者にそういう思いをさせないようにこれまでもして来ているので、そういうことは運用の中でうまいことやっていきたいというふうに思っていたんです、当時は。はい。

(町長)

学校サイドから何か要望とか受けていますか。

(学校教育課長)

私が来てから1回ありましたけど、それ以外は特に。

(町長)

1回というのはどういった内容ですか。

(学校教育課長)

要は周りを走ったりするので、道路の車道に近いので危ないというようなのを江差小学校で保護者から言われたっていうことがあって、それは私が口頭でまち課の方に伝えた、それが本当に春先に1回あったぐらいで、あとは特にないです。

(町長)

ありがとうございます。他に皆様から何かあれば。

(教育委員)

よろしいですか。

(町長)

どうぞ。

(教育委員)

前回の教育大綱と違って、町長がおっしゃったようにこの最後の2つが新たに社会教育の部分も書き加えられていて、私はとても嬉しいと思っています。教育というのはもちろん学校教育は子どもたちに対してありますけど、私達はずっと学び続けて生きていかなければならないという意味で、4つ目と5つ目が入ったというのはとても素晴らしいことだと思っています。江差町の立ち位置は都会と田舎と言ったら割と田舎。そして新しいものが栄えてきているけども、古いもの、普遍的なものということですよね。古いものと新しいものを見比べてみる、都会と田舎、そして江差町ならではのもの、江差町ならではと言っても、先ほど委員から指摘ありましたけれども、一番最後が江差町ならではの部分ではないかと思っています。

そして1番2番は例えば子どもに照準を当てているとは思いますが、そういうのを入れてこの5つの柱というのは、今回すごく素晴らしいものが出来たなと思っています。すみません、感想ですけど。

(町長)

いえ、ありがとうございます。今、大綱についての発言だったのですけれども、付け加えた部分があって良かったということがご趣旨だったと思います。江差町の立ち位置というところを踏まえた上でということで、ご評価いただいたということでありがとうございます。その他にご発言があれば。

(指導主事)

質問を1点、お願いします。教育の方針で後半を学ぶ心を育むという赤字が加わりました。学ぶ心というのは、町長としてどういうイメージあるいはどういう意図があってこういう表現が追記されたのか教えていただきたい。

(町長)

はい、この部分はまさに社会教育、生涯学習の部分というところで、最初のこれまでのものでは「子どもたちの誰ひとり取り残さない教育行政を推進する」ということで、もう子どもにしか目がいっていなかった部分をちょっと、もっと修飾語をつけてもいいのかなと思ったんですけど、長くなればなるほど文書的になって良くないなと思ったので学ぶ心を育むということで切ってしまったんですけども、大きくはその下の取組の柱の「生涯を

通じて学び続けられる心身を育む町」というところを付け加えたということでした。

(指導主事)

はい、ありがとうございます。

(町長)

もっと何か修正した方がいいとか、こういうお考えがあれば。

(指導主事)

今の町長のご説明でそういうことなのだと僕は初めて理解したのですが、ただ文脈からいくと、学ぶ心を育む、ここが生涯学習とかを全ての人を対象にした生涯学び続ける心、態度を育むんだというのは、いまいちピンとこない感じで。どうしても子どもがまだ先頭に言葉があるので、そこに何か関わっていく感じがあの指導主事レベルだと感じるものから。

(町長)

単純にこの点の後に生涯を通じてと入れれば良いかと思うんですけど、くどいかなと思いつつ、でも分かりにくいというご指摘で、ちょっとそこを検討させていく、教育長、変えることは可能ですか。

(教育長)

大丈夫です。

(学校教育課長)

大丈夫ですか。

(教育長)

そうですね、議会に対してなんですけども、議員に資料配布がありますので、そのタイミングで修正かけるってということからしますと、大丈夫です。

(町長)

この文言がですね、3月の議会で教育長の教育行政執行方針に出てくるので、ちょっと修正の作業が必要になってくるかなってところで、ただやはり皆様のご意見をいただいて修正すべきところは一生懸命すべきだというふうに私自身も感じていますので、生涯を通じてを入れる。

(教育委員)

でも入れた方が分かりやすいような。私は分かりやすいと思うんですけど。

(町長)

ありがとうございます。基本的には入れる方向で、教育長すみません。皆さん意見をしっかりと。他に何か皆さん何か教育大綱について、それ以外の部分でもどうぞ。

(指導主事)

すみません、併せて同じようなところなんですけども、この生涯学習の視点を加えられたということで、実は先週かな、南が丘の老人クラブで町内巡りというのが、バスを使わせてもらって回って、郡役所でいろいろ説明を受けながら、刑務所があるとか留置場があるとか、そういうのも初めて見たんですよね。90とか80の人達も、ずっと江差にいる人達が初めて見たものすごく喜んで、違う会議でもあったんですけど、江差に住んでいるけどそういうところを見たことない人がたくさんいるんじゃないかということで、改めて町民の方達に案内するっていうか、そういうのも生涯学習で必要なことなのかなというふうに思っています。

(教育委員)

何でもありますよね、あそこ。

(指導主事)

いろいろあるんですよね。

(教育委員)

生協の前の江光デパートの包装紙の包み、ええって思っています。実は1年事務員していたんです。あの包装紙どこから出てきたのって、本当に。

(指導主事)

そういうのを見ていたら、いろんなものありますよと、そういうのもあるのかなと思う。教育の部分に入るかなと思いつつながら今回見させてもらっていました。

(町長)

ありがとうございます。江差町は転勤者の多い町で、観光協会が中心となってやっているんですけども、5月ぐらいに、来た方を観光名所を巡るといような取組もやっているんですね。ただやはり町民に対してではなく新たに来た人に対してといような視点が強いので町民を対象とした、地域にあるそういった施設あるいは文化を、歴史をもう一度知っていただく機会を作るっていうのは非常に大事なかなというふうに、今聞いて感じたところです。数年前から江差町のそういった施設が町民の皆さん無料としているのでやりやすいかなということと、1つの課題は開陽丸について、まだ有料なので、そういった部分をどうしていくのかということ、今休館中ですけども道の駅に合わせて少し変えていく必要があるのかなということも感じています。ちょっと開陽丸だけ取り残されてしまう。有料だとなかなか足を踏み入れにくい。開陽丸も大事な町の文化歴史だといふふうに思いますので、そういったときに町民の皆さんがどう学ぶといふか知っていただくかということ

は、工夫していかなければいけないなと感じています。ご発言ありがとうございます。その他、何か皆さんからご発言はないでしょうか。

(教育委員)

はい。柱の4つ目の「生涯を通じて学び続けられる心身を育む町」ということで、先ほど社会教育課長からシニアカレッジの卒業式の案内をいただいたんですけども、10年でしたっけ。

(社会教育課長)

大学、一応4年間その後修士博士課程3年3年で10年間、とりあえずは大学院までの通学っていう方もいます。今終わってから同窓生として一緒に活動されている方が多くいます。

(教育委員)

書道もすごいなと思って、皆さん出かけたところもありましたよね、何かお出かけの写真も。

(社会教育課長)

はい。研修の。

(教育委員)

そういうのもいいなと思って、皆さんそういうところでいろいろここではできないこと、課長に電子マネーを使って何かやってもらったとか。皆さん経験していいなと思いました。

それと最後の、追加されるであろう「ふるさとの魅力を継承する人を育む町」というふうにあります、先ほどもご指摘いただいたんですけども、江差のお祭りのときは、ちょっと私も、あの江差って言っても尾山なので、はっきり言って関係ないみたいな。うちの子どものときはもう町内じゃなきゃ駄目。いくら半纏着ていても引っ張っても、何か子ども会じゃないでしょみたいな感じで見られておりました。今はもう何か本町とかどこでもウェルカムみたいなところに知り合いとかも来たときには、半纏を借りてやっているの、お祭りはそれなりに楽しんで欲しいと思います。でもお祭りだけじゃないので、江差の地域の歴史や文化に触れて、これからも継承というか身につけていきたいものがあると思うので。

(町長)

ありがとうございます。今、大きく2点について柱の4番目と5番目の部分だったかなというふうに思います。まずシニアカレッジの取組に対する評価をいただいたところですが、おっしゃる通り江差の歴史文化、お祭り、あるいは江差追分が中心のように語られますけど、それだけじゃないと私は感じています。

例えば日明地区には田沢鹿子舞があつて、これを伝承しようということで地域の人たちが一生懸命やっておられるという姿もありますし、文化ってそれだけではない食文化であ

ったり、あるいは日常の風習であったりというところも、文化の1つかなと思って、例えば農家の女性部の皆さんが小学校にあるいは中学校に行って郷土料理を一緒に作ったり、あるいは漁協女性部が親子に対する魚教室ということで、魚の捌き方をやって伝えていく、これも大変立派な文化の継承だというふうに思っていて、文化というとお祭り追分っていうことを考えられがちなんですけど、それだけではない広い意味での文化というものを皆さんとともに共有をして、次世代に繋げていく取組をしていきたいと考えているところでございますので、ご理解をいただきたいと思っております。ご発言ありがとうございます。

他に何かご意見やお考えがあれば是非お聞かせいただきたいと思っております。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

はい。今いただいた教育大綱についてのご意見を踏まえた上で、まずは教育の方針のところ、生涯を通じてというところを加筆する方向で調整をさせていただくということと、5番目の表現をもう少し工夫できないかということを検討させていただいて、これを成案していきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

いずれにいたしましても、教育というものが大変大事だと私自身も認識していますので、教育委員の皆さんとはしっかり意見交換をしながら教育行政について推進していきたいというふうに思っております。今後とも様々な場面でご協力いただければと。それでは協議事項はこれまでということで、その他、何か皆さんからあれば。

教育委員会事務局からは。ない。教育委員の皆さんからご発言があれば。よろしいでしょうか。

皆さんからご発言いただいたこと、大変貴重なお話だったということで、しっかりそれを受け止めて、令和8年度に向けてもしっかり我々教育委員会と力を合わせて教育行政進めていきたいと思っております。

本日は教育委員会の後の時間をいただいて総合教育会議ということで、ご出席を賜りありがとうございます。また今後ともよろしく願いいたします。お疲れ様でございます。